

3月例会「私のちいさなお葬式」3月24日(水)

引き続き感染症対策(密を避ける(人との距離・換気)・マスク・手洗い(手指消毒))

梅の花が満開になり、春を感じる頃となりました。みなさんおげんきですか

新型コロナウイルスの非常事態宣言がやっと解除になりましたね。まだまだ油断できない状況ですが、感染予防の対策を取りながらとなりますが、1月例会に続き3月例会を開催できることは大変うれいすね。①自宅で体温を測定 ②体調の悪い時は行事に参加しない ③入館時には手指の消毒、マスク着用 ④「3密」にならないようなるべく周囲の方と距離をおく を守って、楽しく映画を楽しみましょう。

例会のお知らせ

■名称/第111回例会『私のちいさなお葬式』

■日時/2021年3月24日(水)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所/加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。



【例会作品データ】

■タイトル/私のちいさなお葬式

原題: Karp otmorozhenny

■監督/ウラジーミル・コット

■出演/マリーナ・ネヨーロワ、アリーサ・フレインドリフ、エブゲーニイ・ミローノフ、ナタリヤ・スルコワ、セルゲイ・プスケパリス、アントン・シピニコフ、タチアナ・トゥゾワ、オリガ・コジェブニコワ、アルチョーム・レシチク

■データ/2017年、ロシア、100分

■ジャンル/ヒューマン、コメディ

■ストーリー/村にひとつしかない学校で教職をまっとうし、定年後は慎ましい年金暮らしを送っている73歳のエレナが、病院で突然の余命宣告を受けた。5年に1度しか顔を見せないひとり息子オレクを心から愛しているエレナは、都会で仕事に大忙しの彼に迷惑をかけまいとひとりぼっちでお葬式の準備を開始する。まずは埋葬許可証を得ようとバスで戸籍登録所を訪れるが、中年の女性職員に「死亡診断書がなければ駄目です」と素っ気なく告げられ、元教え子のセルゲイが勤める遺体安置所へ。「息子は忙しすぎて、葬儀だのお通夜だの手配できないわ。私はただ、いいお葬式にしたいだけなの」そう事情を説明してセルゲイにこっそり死亡診断書を交付してもらったエレナは、戸籍登録所での手続きを済ませたのち、葬儀屋で真っ赤な棺を購入する。

翌日、ふたりの墓掘り人を引き連れて森の墓地に向いたエレナは、そこに眠る夫の隣に自らの埋葬場所を確保する。隣人のリュダに秘密のお葬式計画を知られたのは誤算だったが、すぐさまエレナの心情を察したリュダは、ふたりの友人とともにお通夜で振る舞う料理の準備まで手伝ってくれた。リュダらが去った後、生前の夫との思い出の曲をかけながら死化粧を施す。

かくしてすべての段取りを整え終えたエレナの“完璧なお葬式計画”は想定外の事態へと転がり出すのだった……。 (作品ホームページから抜粋)

私の映画KAN「私とシネマクラブ」

先日明石シネマクラブの「グリーンブック」を観に

行きました。加古川シネマクラブとの交流で無料というの大きな魅力です。

映画の舞台となるのは、1962年のアメリカ、南部の多くの州では、黒人が一般公共施設を利用することを禁止制限した法律が存在し、実質的な人種差別がおこなわれていました。公然と黒人の利用を拒否する南部の宿泊施設やレストラン。黒人の旅行者たちがそれらの施設を利用した際のトラブルを避けるため、彼らが利用可能な施設をあらかじめ記入したのが、グリーンブックです。この映画を見終わった後、友達と感想をメールでやり取りした時に「アメリカには“自由の女神”があるのに…」という言葉が出ました。そこで調べてみました。アメリカが独立戦争によりイギリスから独立した(1783年)100周年を記念して、フランスから送られたとのこと。独立戦争とは？ 奴隷解放とは？ 高校生が世界史を調べているようです。

この映画は、1962年なんと 奴隷解放宣言がされてから約100年後が舞台なのです。自由の女神は、右手でたいまつをかかげ、自由の光で世界を照らしているのだそうです。法律ができたからといっても、心の変容は難しいという証拠です。日本にもあてはまるなあと考えさせられました。ただ映画を見るだけでなく、そこからいろいろと考えさせてくれるシネマクラブがこれからも楽しみです。(有)

前回の例会報告

1月例会は、久しぶりに16ミリの映写機を持ち込み、カラカラとフィルムの回る音を感じるなかで1983年の映画「ふるさと」を楽しみました。

「ダムの底に沈んでいく山村の四季の美しさと加藤嘉さんの圧倒的な演技が際立った秀作」「16ミリ映画の良さを堪能しました」「前半の加藤さんもよかったし、最後に村を離れていく皆さんが涙なしでは観れませんでした」「私たちの幸せは本当にいろいろな人の犠牲の上に成り立っていると思いました」「本当に良い映画でした」と、好評でした。映写技師の梶田さんは16ミリ映写機は初めて。練習してきたものの、少々不安で、映画センターからベテランの方に来ていただき、教えてもらいながらの映写でした。(若い方は16ミリ映写機を知らないのですね)参加者は79名。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第64回例会『家へ帰ろう』

(2017年、スペイン・アルゼンチン合作、93分)

■監督/パブロ・ソラルス

■出演者/ミゲル・アンヘル・ソラ、アンヘラ・モリー

ナ、オルガ・ボラズ、ユリア・ベアホルト、マルティン・ピロヤンスキー、ナタリア・ベルベケ

■ジャンル/ヒューマンドラマ、ロードムービー、戦争

■解説/ホロコーストを生き抜いたユダヤ人の老人が、70年の時を経て、友人との約束を果たすためにアルゼンチンから故郷ポーランドへ旅する姿を描いたロードムービー。ブエノスアイレスに暮らす88歳の仕立て屋アブラムは、高齢者用施設に入れられるのを逃れ、故郷のポーランドに旅に出る。

その旅は、第二次世界大戦の時、ユダヤ人である自分をナチスの手から救ってくれた親友に、自分が仕立てた最後のスーツを渡すという目的があった。



■日時/4月16日(金)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 134人(1月26日現在)